



十勝発。 ツルと人との新しい関係。

地域とともに考える、タンチョウ分散の取り組み

か

つて北海道一円を繁殖地とし、冬は本州にまで南下し越冬していたタンチョウの姿を、歌川広重の「名所江戸百景」にみることができます。

しかし、江戸時代後半から明治時代にかけて、乱獲や生息地の開発等により次々と姿を消し、一時は絶滅したものと思われるまで激減しました。1920年代に釧路湿原で再発見され、その後、冬期間の給餌をはじめとする地域の人たちの手厚い保護活動により、ようやく1,000羽を超えるまでに回復しました。

一方、現在のタンチョウは釧路湿原周辺域にある給餌場に90%以上の個体が集中して越冬しています。給餌場等で何か問題が起されば、再び絶滅の危機に立たされてしまいます。

本

来の生息環境を大きく失った今、タンチョウが自然分散していくことは容易ではありません。タンチョウの分散には人の手助けが必要なのです。

そのためには、タンチョウと人との新しい関係を築きつつ、ともに暮らし調和していくべきか、地域で考えていく必要があります。

タンチョウ本来の生態や、十勝での生活の様子、タンチョウが棲める環境を市民とともに作っている事例などを紹介しながら、タンチョウにとっても人にとっても素晴らしい地域作りを進めるため、このシンポジウムを企画しました。

日時

平成26年3月1日(土) 13:30～16:30
同日開催「タンチョウ保護増殖検討会」10:00～12:00(詳細は裏面)

場所

大樹町生涯学習センター
オークホール (定員150名)

入場

無料 (事前申し込み不要)

主催

公益財団法人北海道環境財団、環境省北海道地方環境事務所

協力

大樹町、北海道ラムサールネットワーク、一般社団法人湿原研究所、
特定非営利活動法人タンチョウ保護研究グループ

協賛

アサヒビール株式会社、ニッカウキスキー株式会社

後援

公益財団法人日本野鳥の会

お問い合わせ

公益財団法人北海道環境財団 内山まで TEL:011-218-7811

この印刷物は、震災復興型カーボンオフセット用紙を使用することにより、CO₂削減事業ならびに東日本大震災被災地復興を応援しています。

抽選会とおみやげ付き

アサヒビール株式会社、ニッカウキスキー株式会社のご厚意により、ニッカウキスキー「竹鶴ビュアモルト」(5本)が当たる抽選会を実施します。
また、ご参加の皆様(先着150名限定)に、ソフトドリンク等のおみやげを差し上げます。



www.nikka.com

Photograph by Hiroki Tsuji

十勝発。ツルと人との新しい関係。

～ 地域とともに考える、タンチョウ分散の取り組み ～

話題提供

1 タンチョウって、どんな鳥？ ～生態と個体数について～

正富 欣之さん NPO法人タンチョウ保護研究グループ 副理事長

タンチョウは道内全域に繁殖地が広がったとしても2,000～3,000羽で頭打ちになると予測される一方で、事故や環境変化による生存・繁殖率の低下で減少に転じる可能性もあります。十勝での繁殖・越冬状況とあわせて、野生生物としてのタンチョウの生態についてお伝えします。

2 市民とともに作るタンチョウ自然採食地 ～鶴居村での取り組み～

有田 茂生さん 元公益財団法人日本野鳥の会鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ

冬のタンチョウは給餌場だけで暮らしているわけではなく、周辺の自然環境が生息の鍵を握っています。鶴居村ではちょっとした工夫でタンチョウが使える場所となり、市民参加で環境改善に取り組みながら地域の環境を考えるきっかけにもなっています。今回は、それらの事例をお話しいたします。

3 酪農地帯のタンチョウ ～ツルオ君のこと～

百瀬 邦和さん NPO法人タンチョウ保護研究グループ 理事長

平成25年1月、鶴居村の給餌場に飛来したタンチョウの幼鳥に、位置情報を記録する装置を装着し記録を取っています。親に連れられて別海の牧場に戻り、再び鶴居の給餌場に現れるまで、ほぼ一年間にわたる行動の詳細をお話しいたします。

4 十勝川での取り組み

佐々木 靖博さん 国土交通省北海道開発局帯広開発建設部池田河川事務所計画課調整係長

十勝川では多くのタンチョウが繁殖している一方で、河川管理の上でさまざまな工事が欠かせません。繁殖や生息への影響を限りなく少なくするよう、タンチョウの生態について助言を受けながら、工程や工法の工夫で両立させている事例を紹介していただきます。

5 ツルと歩む50年

阿部 良富さん 酪農家・忠類農業協同組合理事

大樹町・生花苗沼のほとりで農業を営みながら、ツルをはじめとする多くの野生動物と共に歩んでこられた経験から、さまざまな苦難を皆で乗り越え、知恵を出し合ってこそ、はじめて自然との共存が成り立つということをお話しいたします。

パネルディスカッション ～地域とともに考える、タンチョウ分散の取り組み～

同日開催 10:00～12:00 **タンチョウ保護増殖検討会** ※どなたでも傍聴いただけます(申込不要)。

会場

大樹町生涯学習センター オークホール

主催

環境省釧路自然環境事務所

検討委員

藤巻 裕蔵(帯広畜産大学名誉教授)

正富 宏之(専修大学北海道短期大学名誉教授)

黒澤 信道(釧路地区農業共済組合総務部長)

百瀬 邦和(NPO法人タンチョウ保護研究グループ理事長)

松本 文雄(釧路市動物園園長補佐)

小川 巖(酪農学園大学生命環境学科教授)

議事

◎H25年度タンチョウ保護増殖事業実施状況 ◎H26年度タンチョウ保護増殖事業実施計画案 ◎その他